小泉としひろ後援会報

小諸ぷらいど通信

VOL.1
2017.6.2発行

編集・発行　小泉としひろ後援会事務所　〒384-0808　小諸市御影新田2529-1-103　TEL0267-23-8788

市長就任一年を振り返って

小諸市長
小　泉　俊　博

昨年４月１０日執行の市長選挙において、多くのご支援をいただき市長に就任し、早くも１年が経過しました。

皆さんと勝利を喜んだのがつい昨日のようにも、はるか昔のような気もします。

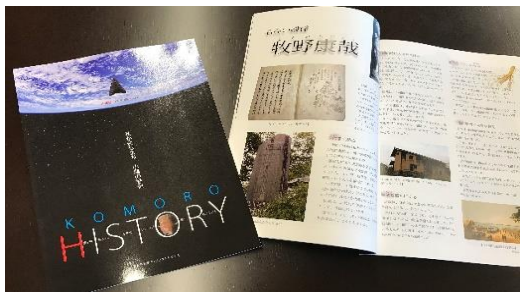
この間、お陰様をもちまして大変貴重な数多くの経験をして、毎日が充実した日々を送っております。

小諸に元気と誇りを取り戻すために

さて、昨年の選挙戦では「小諸に元気と誇りをとりもどす！」をスローガンにしました。市長となり改めて先人達が生み育て、守ってきた歴史や文化、自然などの大きな遺産に感謝するとともに、市民一人一人がこれらのものを知り、誇りに思い、現代を生きる私たちが自分たちにできることをもって、後世に引き継ぐものを創っていかねばならないと痛感しています。

そこで、就任直後に新たに情報連略推進係を創設し、市民向けに小諸のこれら遺産を知らしめる広報活動による誇りの回復、マスコミ活用や市内外への情報発信による話題づくりによる元気づくりの創出などに取り組みました。

また、戦略的で先駆的な各種事業の取り組みによる新たな誇りづくりを目指しています。



市役所改革の取り組み

大きな公約の一つに市役所改革があります。

まず、お陰様で副市長、教育長に実力者を据えることができ、上々の船出となりました。

またカイゼン方式による市役所の仕事の見直し（断捨離など）、職員の意識改革、若い職員を中心としたランチミーティングの開催などを実行してきました。一朝一夕に成果を上げるというわけにはいきませんが、着実に前進してきていると思います。本年度からは、より具体的に改革を進めてまいります。

御影用水越流事故、ライオン咬傷事故

多くの市民の皆さまにご心配ご迷惑をおかけしましたが、これらの事故は担当職員のみが原因と片付けられない、もっと根深い市役所の構造上の問題など複雑な要因によるものです。

再発防止に力を入れていることは勿論ですが、様々な要因を根本から改善するために現在職員と力を合わせてカイゼンに取り組んでいます。

例えば職員の意識改革一つとっても、叱責し、一時的に改善できても真の改善にならず再発の可能性が高い。そうであれば何故改善が必要なのか、どうしたら良いのか、自らが考え行動できる職員を育てること。また、障壁があるのであれば上司と部下はそれを取り除くための最大限の努力すること。多少の時間がかかっても、真の改革を行うことこそが民間出身の私の役目と考えていますので、何卒ご理解とご協力をお願いします。

２年目の抱負

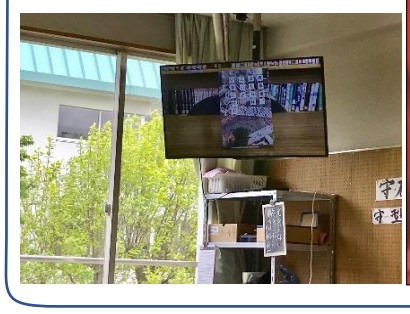
初年度が土地を耕すことに専念してきたとするならば２年目の今年は耕しつつも将来への種を蒔く時といえるでしょう。これからの小諸市が元気と誇りを取り戻し、発展していくための計画作り、投資を行っていくことが大切になります。

粘り強く、着実に前進してまいりますので、これからも応援をよろしくお願いします。

Topic 1
ＩＣＴ施設、教育大綱策定

他の自治体に比べ配備が遅れていたＩＣＴ教育に必要な液晶テレビなどを１２月議会で補正予算を承認いただき、４月の年度当初に小中学校のすべての教室に配備する。

また、今後の教育の柱となる「小諸市教育大綱」を本市で初めて策定し、教育委員会による「教育振興基本計画」とともに「こもろ未来プロジェクト教育編」としてまとめ各戸配布を行った。



Topic 2
ふるさと納税の大幅増

人口減少による税収減、財政の健全化のため、新たな自主財源の確保が課題であり、また小諸市の魅力を全国発信することを目的として、ふるさと納税の獲得に注力。

返礼品の拡充や、インターネットによるポータルサイトの利用、動画による情報発信により、２７年度に６７９万円余（１５５人）であったものを、２８年度は準備のため年度途中の始動であったが５２１３万円余（２４３４人）に拡大した。

今年度は最低１億円の獲得を目指す。

Topic 3
トップセールスの成果

市長自らが小諸市の産物・産業の特長や優秀性を宣伝するトップセールスを積極的に行ってきた。

南大井産のブロッコリーの大阪市場への売り込みは市場関係者に大変好評であり、日本トライアスロン連合のナショナルチーム、日清食品グループ陸上部の高地トレーニング誘致は合宿を実現した。

今後も様々な分野でのトップセールスを計画、実施し市の発展に努めていく。

小泉市政の一年を振り返る

Topic 4
こもろ観光局の設立、開業

小諸市観光協会や宿泊、観光事業者のみならず農商工事業者や金融機関とも連携して、昨年11月に「（一社）こもろ観光局」を立ち上げた。

４月から本格的に営業を開始し、小諸の魅力を一元的に集約し、発信することでマーケティング、マネジメント等を図り、情報の乱立となる媒体を淘汰しながら、第５次基本構想の「住みたい　行きたい　帰ってきたい　まち　小諸」をめざして交流人口及び定住人口の増加につなげていく。

詩情あふれる 高原の城下町
～ようこそ！スケッチ文化都市へ～
こもろ観光局
KOMORO TOURISM BUREAU

Topic 5
小諸市のＰＲ動画が話題に！

就任早々に、情報戦略推進係を設置。シティプロモーションとして、市長の企画立案をもとにして、職員が手がけたＰＲ動画を作成した。

通常２００万円以上かかる動画製作費を９５００円に抑えたこと、市長が熱演していることなどに注目が集まり大きな話題となる。市内、県内の新聞、テレビはもちろん、全国放送のテレビ、新聞、雑誌やＳＮＳなどで数多く取り上げられ、小諸市の知名度アップを図った。

Topic 6
市民や団体との広聴事業

市長就任以後、「市長への提言」「広聴事業・市長がおじゃまします」などを通じて数多くの広聴事業を実施する。

「市民参加の市政＝市民協働社会」を実現するために、市民や団体からの意見聴取や政策説明などを精力的にう。この他にも区や地区と行う「行政懇談会」に出席し、地域の課題の掌握や直接生の声を大切にした市政運営を心掛けている。

Topic 7
福祉医療費を１８歳に拡大

中学３年生までとした医療費特別給付金の助成の対象範囲を、昨年１０月の診療分から高校３年生までと拡大した（ただし、窓口では一旦医療費を支払い、後日振り込みで医療費を支払う自動給付方式）。これは飯田市などに続く先駆的な取り組み。なお、高校生３年生までは窓口でのレセプト料（５００円）以外、医療費の支払いをしなくて済むよう財源を含めて検討している。

Topic 8
公共交通の利便性を向上

昨年４月から本格稼働した予約制相乗りタクシー『こもろ愛のりくん』、定時定路線『愛のりすみれ号』の利便性向上のため、昨年１０月と今年４月に大幅改正を行った。

主な改正点は利用者の声を反映して、愛のりくんの乗降場所を９２か所から１７７か所に、すみれ号の停留場を６３か所から８９か所にした。今後も適宜、利用者ファーストを旨に改正・改善を行っていく。

Topic 9
「ジャムの日」イベント開催

日本ジャム工業組合が制定した小諸にゆかりのある『４月２０日はジャムの日』のイベントの誘致に成功した。

これは明治天皇にいちごジャムを献上した塩川伊一郎氏の遺徳を讃えるもので、同組合と協働してジャムの普及促進に一役買い、歴史的にも小諸市の食と農がいかに優れているかを全国発信するとともに、農業振興、ブランド化を推進していく。

Topic １０
東京五輪強化選手の招致実現

長らく“構想”に留まっていた高地トレーニングを具体化。小諸市エリアの推進協議会を立ち上げるとともに、自らの人脈を活かしてトライアスロン競技の日本代表選手の招致に成功。この招致を契機に実業団駅伝部などが続々と標高２０００ｍの高峰高原をベースに合宿を行うことになった。

将来的には、市民の健康づくりに高地トレーニングを活かすとともに、首都圏の市民ランナーを呼び込むことなどによる経済効果も視野に入れている。

Topic １１
高校生・大学生との協働

本年１月に小諸高校、小諸商業高校の生徒と小諸市が地域の活性化を考えることを目的として『小諸未来義塾』を設立。高校と市が連携し、地域資源を活かした市の活性化策などを考え、生徒の主体性を育み、地域に貢献できる自在育成を目指していく。

他にも、小諸市でフィールドワークしている大学、学生との連携を強化し、小諸の活性化につなげていく。